

ヒロシマ ユネスコ

広島ユネスコ協会ホームページをご覧ください

(<http://www.unesco.jp/hiroshima/>)

Eメールで情報提供を
(hiroshima@unesco.or.jp)

広島ユネスコ協会 韓国大邱ユネスコ協会 姉妹提携を継続

大邱ユ協訪問団と交流

広島ユネスコ協会は、二〇〇〇年六月に、韓国大邱ユネスコ協会と姉妹提携協定を結び、両協会間で、相互訪問などの交流を深めてきました。今年で交流が終了するため、これまで両協会が今後のことを協議してきた結果、さらに四年間の姉妹提携を行うことになっていました。

去る十月十八日、最後の交流となる大邱からの第二次訪問団

の来広の機会を利用して、広島プリンスホテル安芸の間に於ける歓迎パーティの前に、韓国大邱ユネスコ協会・徐千済会長と広島ユネスコ協会・北川建次会長が、これまでの四年間の交流をふまえて、さらに二〇〇八年までの四年間の交流を継続する協定書に調印しました。

二〇〇一年九月に広島ユ協大邱訪問団十九名が三泊四日の日



広島ユ協北川建次会長(向かって右側)と大邱ユ協徐千済会長が姉妹提携協定書に調印/10月18日、広島プリンスホテル

程で、大邱ユ協の心からのもてなしに感動しながら友好親善の旅を終えたのを含め、双方二回ずつの訪問などの交流を行ってまいりました。その間に築かれた友好親善をさらに深化・拡充することが今回の継続の目的ですが、その内容については、一次提携とほぼ同様。実施にあたっては、両協会が毎年協議し、合意・決定するように規定されていますので、慎重協議のうえ、両協会の交流の一層の発展に資することが課題となります。

調印式は、会場正面ステージバック(歓迎横断幕)と両国国旗を掲げ、井尾常任理事の司会(通訳/広島大学大学院博士課程・千龍範氏)のもとに、十四名の訪問団の紹介、金演権駐広島大韓民国総領事、齋藤忠臣(助)広島平和文化センター理事長ほか十二名の来賓紹介、両協会会長挨拶、協定書内容紹介に続いて、両会長が協定書に署名し、記念品を相互に贈呈して終了しました。

続いて同会場で行われた訪問団歓迎パーティは、美しい広島湾の夜景に包まれて、進んで胸襟を開き合う明るいものでした。広島市役所合唱団副団長・竹本輝男氏による「音頭の舟歌」

独唱、閉会前の「アリアン」全員合唱も参加した三十四名の会員の胸を熱くするものでした。

今回の大邱ユ協からの訪問団は十四名。別掲の日程で交流を深めましたが、受け入れについては、下関港での出迎えに竹沢副会長、全旅程の引率に藤井・清水両理事、宮島での案内に光田副会長らが当たったほか、歓迎パーティ、昼食会、見学、買物、見送りに多数の会員が心をこめて参画し、貴重な交流をいたしました。新たな交流の一步となったことと思います。

△訪問団(十四名) 日程◇十月十六日(土)/下関国際フェリー港着、チャーターバスで柳井港から松山市へ。日本ユネスコ民間運動全国大会歓迎レセプション参加、奥道後宿泊◇同十七日(日)/松山城、桂浜など見学、高知市泊◇同十八日(月)/倉敷美観地区、大原美術館見学、厳島神社等見学、広島プリンスホテル着、調印式、歓迎パーティ、同ホテル泊◇同十九日(火)/平和記念資料館見学、韓国人原爆犠牲者慰霊碑・原爆慰霊碑参拝、国際会議場での昼食会、市内ショッピング、広島国際港「銀河」にて出発。

第7回広島ユネスコ活動奨励賞受賞者と活動内容

学校・団体(代表者)	分野	活動内容	対象国(者)・地域	活動開始
牛田新町小学校 (栗栖恒久)	国際理解 国際交流	ハワイ州オクラニ小学校と姉妹校。児童の手紙、絵や習字など作品交換。児童・指導者が来校し交流。	アメリカ・ハワイ州オクラニ小学校	1995
祇園小学校 (福原恵美子)	国際理解 (異文化理解) 国際交流	総合的学習に留学生が関わつての「国際理解学習」異文化への関心、理解を深める活動	広島済大留学生(アジア、ヨーロッパ、南米などの9か国)	2001
広陵高等学校 (福原紘治郎)	国際協力 (教育支援、国際理解)	ネパールに学校建設のための募金活動(教育支援)ネパール視察での交流	ネパール	2002
広島学院高等学校 (李聖一)	国際理解 国際交流	体験学習をとおして国際理解、ホスピタリティーの体得、姉妹校との交流、異文化理解(派遣、来訪)	フィリピン	1997
山陽女学園高等部 (石田孝樹)	国際理解 国際交流 国際協力 平和	留学生受け入れ制度による留学生とともに学び合う国際理解教育の推進	大韓民国、カザフスタン、モンゴルなどアジア諸国(当初は、オーストラリア、ドイツ、ニュージーランド)	1998
アジアの友と手をつなぐ広島市民の会 (渡部朋子)	平和、国際理解、国際交流、国際協力(医療、教育、物資支援)	各種の交流・支援活動、訪問団の受け入れ、他団体との共催による事業の実施など広範囲の活動	アジア、南北アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパ、中近東	1989
ボランティアネットワークWE (堀尾美津子)	日本語学習 国際協力(教育支援) 国際交流	日本語学習をおしての活動(日本語の習得、文化交流など)バンクラデシユへの教育支援	在広外国人(これまで26か国179名が学習)現在学習者18名。バンクラデシユ	1992
モハニの会 (高田登代子)	国際交流	広島市や地域行事への参加を長期にわたり行い、交流・親善を深め、相互理解に努める	ネパール	1993

広島ユネスコ活動奨励賞受賞団体決定

今年で七回目を迎えた広島ユネスコ活動奨励賞の募集は十月末で締め切り、十二月三日に行つた審査(審査会委員長/中山修一日本ユネスコ国内委員)の結果、学校・社会両部門の受賞八団体が別表のとおり選ばれました。

今年で七回目を迎えた広島ユネスコ活動奨励賞の募集は十月末で締め切り、十二月三日に行つた審査(審査会委員長/中山修一日本ユネスコ国内委員)の結果、学校・社会両部門の受賞八団体が別表のとおり選ばれました。

今回の受賞団体を含め、これ

まで受賞した団体は学校部門で小学校十三校、中学校四校、高等学校八校、社会部門は二十六団体となります。

受賞団体には、一月十六日(日)開催の「ユネスコ新春フェスタ2005」で表彰式が行われ、

「へあせろべ」賑やかに開催
広島に住むさまざまな国籍の人たちが一緒にあって楽しむ第二十一回のへあせろべが、去る十月三日(日)、晴天の中、五十団体が参加して中央公園で賑やかに開催されました。

今回は、芝生広場の中央にブースを並べ、ステージは西側に設置して、国際色豊かに出展やバザー、踊りなどが披露されました。北側には初めてビッグばらんこが設けられ、ペアーでそれに乗って、大きな声を出して自己アピールする催しや綱引きも行われました。

当協会では、子どもたちに伝承遊びを体験していただくこと、わらわらうりや火おこし、竹馬、竹とんぼ、シャボン玉、創作教室などを行いました。テントの回りには世界寺子屋運動の写真展も行い、しばし立ち止まって見ている人もいました。また、英会話教室「ひろしまを英語で話そう」の受講生が国際交流のお手伝いにと、外国人への通訳に挑戦しました。昨年同様、中でもシャボン玉は子どもたちに大人気でした。

今年はずの配置がこれまでと変わったためにステージや広場での催しが見えなかったことを残念に思います。これまで



これからはますます国際交流・理解が深まっていくようお互いに知恵を出し合っていきたいものです。(写真は火おこしを体験する参加者 (理事・國田 繁))

ユネスコ新春フェスタ2005

とき/2005年1月16日(日) 午前10時から
ところ/エンゼル・パルテ(旧並木パラスト)
(中区袋町25)
内容/◇第1部 広島ユネスコ活動奨励賞表彰
(講評、賞状・楯授与、活動紹介)
◇第2部 篠笛、フルートの演奏
演奏・梶川純司さん、梶川美砂子さん(ピアノ)
《記念パーティ》 同日正午 会費6,000円

【梶川純司さん】



広島県出身。9歳からフルートを始める。
16歳でバツハ作曲「フランデンフルグ協奏曲」第5番の独奏者としてデビュー。その後、数々のオーケストラとの共演で高い評価を受ける。
22歳から、広島ジュニアオーケストラの指揮者として後進の指導にあたる。
1989年、若手演奏家の発掘、育成、自立活動をめざして「コンソート音楽集団」を主宰。自らも若手演奏家たちと共演、新たな音楽表現を追求するなど意欲的な活動を展開する。
1996年、ベネズエラの首都カラカスで、昼夜12回連続で篠笛コンサートを行う。
1999年、活動の場を佐伯郡湯来町に移し、屋号を音楽作房「朴風の家(かぜのいえ)」とする。
これを機に「コンソート音楽集団」を「朴風の家音楽集団」と改名し、自然の中での人間の営みや環境保護などをテーマに活動している。

「朴風の家音楽集団」 主宰
「広島邦楽連盟」 幹事
「中国地域づくり交流会」 会員
NPO法人「セトラひろしま」 理事
音楽総合プロデューサー

大邱だより (3)

常任理事 藤井正一

今回は、韓国の教育界で起きている二つのことをご紹介し

「少子化に伴う定員割れ」

大邱広域市や慶尚道地方で、二〇〇五年の高校卒業生数が約六万人ですが、大学校（四年制）と大学（専門学校）の合計定員数が約九・五万人になっており、定員数三・五万人が余剰している、教育機関の存亡自体が問題となっています。

私が属する啓明大学校は、学生数二・七万人に達しています。これからは経営改革で暫時、教授百名の削減が大きな課題となっています。慶北大学（国立）をのぞいて、私学の大学校、大学（専門学校）そして高等学校では、限られた学生の奪い合いでしごを削る熾烈な戦いが待ち構えています。

〔携帯電話カンニング事件〕

韓国は大学入試への「受験地獄」が世界一といわれます。十一月十七日、全国一斉に修学能力試験（修能／日本の大学入試センター試験に当たる）が実施され、六十万人の高校生が受験しました。その際、携帯電話を利用した修能カンニング事件が全国的

に起こりました。警察が携帯電話会社の携帯メールの送信内容を精査し、確認したもののだけで四つのグループ（百八十三人）にのぼり、最終的に二百人以上に膨れ上ると予想されています。

数十万人が同じ科目を同じ教科書で学び、同じ問題で試験します。一、二点の僅差で明暗が分かります。暗記する学生たちが予備校に通って、最高点を獲得するのに躍起となるといわれています。

東亜新聞の社説では「今回のカンニング事件の根本的な原因は、結局、教育の根本が間違っていることにある。教育は他人

高校生国際理解セミナーを開催

高校生国際理解セミナー（本協会主催）が八月二十三日、広島市まちづくり市民交流プラザ

で、生徒・教師ほか市民百十余名の参加を得て開かれた。この事業は、来年八月の全国高校生ユネスコ研究大会受入れを控え、大会の主役となる高校生と指導者の確保のための事前セミナーとして企画されたものである。

NPOひろしま生涯教育研究所、(社)日本国際体験協会（EIL）、広島市まちづくり市民交流プラザとの共催で、広島文化短大ボランティア・バンクの協

と共に生きていく方法を教え、『社会的人間』を育てることだ。社会的人間に成長するため、最初に学ばなければならないのが規則であり、法であり、倫理だ。

韓国の教育は子どもたちに「知、徳、体」の能力をつけるどころか、教育の出発点であるべき根本的な「規則と法と倫理」を教えることにも失敗したのだ」と厳しく指摘しています。

韓国の教育は、政治、社会で世代間の亀裂が生じ、対立させていることを反映しており、「国家百年の計」といわれる教育の本質をどうすべきかで、揺れ動いているようです。

力を得た。

セミナーは、梶井朝子・常任理事のさわやかな総司会により進められた。概要次の通り。

〔第一部 高校生のレポート〕

広島工業大学附属広島高等学校「国際クラブの活動」：「五感で知る」を部活動の方針とした多彩な実践展開の発表。

同じく広島工大附属広島高校の「サラワク（マレーシア）スタディツアー」：ボルネオ島の先住民イバンの人々との得がたい生活体験とあたたかい心の交流報告。

広島学院高校「フィリピン体験学習」：姉妹校アテネオ・デ・ナガ高校との交換留学プロジェクトの紹介と、そのスクー

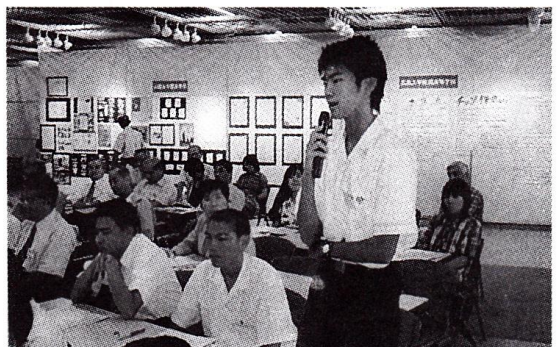
ルライフや現地施設訪問などから得られた交歓学習のレポート。広島大学附属高校「ユネスコ班の活動」：文化祭と全国高校ユネスコ研究大会（熊本）報告。

山陽女学園高等部「カザフスタン留学生の体験」：平和都市広島に来ての「平和への思い」が語られる。旧ソ連時代の実に四七〇回にも及ぶセミパラチンスク核実験により、今なお続く障害や後遺症の実態。「人間から人間の未来を奪い去る……もう、人間の運命をもてあそぶのはごめんだ」の詩の朗読がカザフとヒロシマをつなぐ共感をよぶ。



実践発表をする高校生たち

意見を述べる男子生徒



〔第二部 意見交換〕

第一部の「レポート」をもとに、藤原隆範・当協会理事の巧みなさばきで、活発に意見の交換が行われた。

〔講話〕

「ユネスコが高校生に期待すること」講師、日本ユネスコ国内委員・中山修一先生（広島経済大学教授、常任理事）

いまユネスコが進めている最新の情報提供と高校生への激励をこめた講話で、セミナーは盛会裡に閉じられた。

なお、参加高校は、前記発表校のほか比治山女子高校、山陽高校、皆実高校。会場には、各校の活動記録や参考資料が展示され、参加者の眼をさそった。
（常任理事・太鼓矢 晋）



世界遺産登録記念 原爆ドーム絵はがき

改訂版を発行

原爆ドームの世界遺産登録を記念して登録の翌97年に発行した原爆ドーム絵はがきセットはこれまで初刷り千部、次いで二千、三千と増刷を重ねて一万部を突破、初版分の在庫が底を突いたため、改訂版発行に踏み切り、このほど、完成しました。

原爆ドーム絵はがきは、被爆前・直後・現在のドーム、これに遺産登録直後の冠雪のドームとドームを描いた児童画の合わせて五枚セット。これらのはがきに記載された日本語・ハンゲル・英語の説明文を通して世界遺産の意義、核戦争の惨禍と脅威を証明する原爆ドームが担う意味、ユネスコの理念などのメッセージが、これまで修学旅行とヒロシマ学習で広島を訪れる国内の小・中学生、高校生に、また原爆資料館売店の普及を通じて、発信されてきました。

絵はがき五枚の内、被爆直後（広島平和文化センター提供）、雪のドーム（世界遺産化を進める会）は、ドームに立つ少女と折り鶴を描いた画家・四国五郎さんの表紙を含め改訂版でも継続採用し、新たに差し替えられたのが被爆前の産業奨励館（要田昭治さん提供）、現在のドーム（広島平和文

化センター国際交流協力課・西山さん撮影）、児童画（広島平和文化センター主催「平和ボスター」02年度最優秀／井口台小四年・鶴岡沙織さんの作品）。改訂版はがきは十一月、児童画で採用された井口台小の鶴岡さん（現在六年生）が通う井口台小学校で、母親、校長、担任、鶴岡さんの絵の個人教師らの同席のもと鶴岡さんに当協会役員から贈られました。

席上、昭和二十四年の結成の後、組織が消滅するまでの間の広島ユネスコの活動の一端がうかがえる話が鶴岡さんに絵を教えている先生からありました。

「鶴岡さんの絵がユネスコの絵はがきになると聞いて驚きました。私自身、千田小学校の児童だった昭和二十六年ころ、当時の広島のユネスコ協会の募集に応募した私の絵がイタリアに送られ、賞金一ドル（当時三百六十円）と賞状を戴きました。その賞状は今も大事にしています」

図らずも絵の先生と弟子が時を隔てて絵を通じてユネスコと関わったことに深く感激されたのです。

なお、鶴岡さんの母親の手配で居合わせた中国新聞の記者が取材し、その日の模様と改訂版絵はがき発行のことが、後日写真入りで新聞で報じられました。

た。

この絵はがきをできるだけでなくの方々に見ていただき、世界遺産の意義などを発信したいと思えます。会員の皆様のご協力をお願いします。一部五百円、団体購入同四百円。

（常任理事・亀井 章）

国際交流・協力の日 多数の参加者集う

去る十二月五日(日)、第五回「国際交流・協力の日」の行事が国際会議場内並びに周辺の緑地帯を会場として行われ、天候にも恵まれ、大盛況の中に終了しました。

この行事は広島国際化の進展に寄与することをねらいとして、広島市、広島平和文化センター、JICA中国独立行政法人国際協力機構、ひろしま国際センターが主催し、「実行委員会」が主管して行ったものです。

今回は開催のために、広島ユネスコ協会も実行委員として参加し、三月から審議を重ね、準備を続けてまいりました。その結果、十九事業、延べ八十五団体参加の大イベントとなりましたが、今年度は昨年度の反省から、とくに「マンネリ化を防ぎ、新しい取り組みに挑戦すること」の共通認識を忘れないようにしました。

当協会は、第一回から主要参加団体として期待されており、昨年・今年と「展示紹介コーナー（二十七団体）の担当実行委員としての役割も果たしました。地下二階の「ひまわり」の部屋を会場に、各団体が工夫をこらした発表を展開しました。

入場者が昨年比で倍増し、どのブースにも参観者が群がり、説明パンフレット等が早々と品切れとなるほどで、これにさらに工夫を重ね、この流れを加速させることが今後の課題となりました。

広島ユネスコ協会の発表については、各部会代表で構成する参加実行委員会で話し合い、広島ユネスコ協会の活動を紹介する冊子とパワーポイントの作成を中心に展示し、参会者にユネスコ活動の意義を知らしめたものと思います。

その他、寺子屋運動、世界遺産に関する資料、当協会の作成した原爆ドームの絵はがき、ユネスコ活動を紹介するパンフレット、入会案内などを展示しました。

また、今回初めて、当協会と青少年センターの共催事業・英会話教室から誕生した英会話グループの六名が参加し、英語で外国の方々と交流を深めるなど、意義ある一日となりました。

（常任理事・松尾昭彦）

「平和の鐘」五年目

中国、大阪の青年も参加

100に始まり今年で五年目を迎えた「平和の鐘」国内ユネスコ協会一斉行動に当協会も参加、八月十五日正午を機して黙禱を捧げ、鐘を鳴らしました。

当日、広島市平和公園内の平和の鐘樓前広場に集まったのは広島会社ワイテックで研修の中国青年(于春陽さんら十四名)、ヒロシマ・スタデイで来広中の大阪南ユネスコ協会青年部Us(大学生、社会人ら十四名)、比治山女子高生と多彩な顔ぶれ。これに当協会会員、通りすがりの旅行者も加え、総勢百名を超える人びとが参加しました。



鐘を撞く前、午前十一時半から始まった集会は、梶井朝子理事の司会で、まず協会の北川建次会長が挨拶を兼ねて行事の趣旨を紹介し、次いで大阪南ユネスコ協会青年部を代表して東本健一さんが、「原爆ドームや市内の被爆遺跡が訴えかけてくるものが強い。広島はまさに世界に平和を発信するための場所と言える」と、挨拶されました。集会では第一回から継続している日韓ユネスコ協会の間で交わされているメッセージが今年も披露されました。韓国・大邱ユ協のメッセージ

(の一部)は次のとおり。「来年、終戦六十周年を迎えますが、平和へ向けての世界の人々の誓いと祈りにもかかわらず、イラク戦争、イラクでの極悪なテロ行為、核兵器実験・開発など途絶えない暴力に対して、「平和の鐘」は無言の抵抗であり、世界の良識に訴える警告であると思います。世界平和を願う広島市民の心を込めた鐘の音が世界の隅々まで響きわたるよう、また、その音が日韓友好親善にも繋がっていくよう願ってやみません。韓国ユネスコ大邱協会会長徐千濟」

広島からは大邱ユ協宛に「韓国・中国をはじめアジア諸国と世界に対して犠牲と苦難を強い戦争を反省して不戦を誓うと共に、世界平和を祈る」という趣旨のメッセージを朗読し、日韓両国の友好と世界平和の実現のために努力することを表明しました。

当日、参加者に、うちわ、ユネスコ・パンフレット、日韓両協会の交換メッセージが配られ、また、昨年からは始めた平和メッセージ記帳コーナーでは参加者、通りすがりの市民らに平和への声を記帳してもらいました。なお、当日の様子はマスコミ

数社が取材し、RCCテレビ、新聞などで報道されました。写真Ⅱ上は、鐘を打つ中国研修生・于さん。下は、挨拶する大阪南ユ協・東本さん。

(常任理事・亀井 章)

大阪ユ協青年部、ICU ヒロシマ・スタデイに

広島ユ協受け入れ初顔の大阪南ユ協青年部とICU(国際基督教大学)ユネスコクラブが夏休みの間、ヒロシマ・スタデイで広島を訪ねてきました。当協会平和部会では、両グループの日程編成、研修内容の相談に応じ、講師・案内ボランティアの手配など対応しました。大阪南ユ協(十四名)は、八月十四日午前中、ピースボランティアの解説で原爆資料館見学と平和公園の慰霊碑めぐり、午後は高橋昭博・当協会副会長の被爆体験講話に続いて、比治山・広島城・袋町の三コースに分かれたフィールドワークで学習し、夜は広島ユースホステルで「平和」について討論しました。翌日は青少年センターで「まとめ」の意見交換後、平和の鐘の行事に参加。その後、原爆の子の像に千羽鶴を献納し、厳島神社へ出かけました。

後日届いた報告書には、訪問箇所の写真と感想、高橋副会長の証言の要録・証言の感想(体験に基づいたお話で原爆を身近なものとして受け止められた。原爆は過去のものでなく現在進行形の問題だと感じた)などヒロシマ・スタデイの成果が綴られていました。

一方、ICUユネスコクラブ(六名)は長崎見学の後、九月二日に広島入りして二日間、原爆資料館見学、平和公園の慰霊碑めぐり、語り部の池田精子さんの被爆体験講話など熱心に見学・研修を重ねました。なお、同クラブのホームページには、先輩たちが広島で収録した写真・解説記事が掲載され、これをもとに事前学習が行われており、ヒロシマ学習の方法が多様化してきている様子がうかがえます。

(常任理事・亀井 章)

書き損じはがき 回収運動

住所を間違ってしまった、印刷しすぎて余った、古くて使えないなどの理由でポストに投函されていない未使用の官製はがきを事務局までお届けください。寺子屋運動の一環です。

中国ブロック・ユネスコ 活動研究大会報告

「より素晴らしい地球の未来に向けて、今、私たちが取り組まなければならないこと」という大会テーマで、二〇〇四中国ブロック・ユネスコ研究大会が、十一月六・七日、岡山県津山市美作高校を会場に開催され、佐々木肇理事と事務局長山本が参加しました。

基調講演では、美作大学・目瀬守学長が「環境と農業」と題して講演。

日本ユネスコ協会連盟から、①加盟団体は現在二百九十八(内三十団体休会)、会員数一万八千人で、維持会員を増やすことを考えたいが、不況のため減少傾向②書き損じはがき、バミヤン支援キャンペーン募金活動は今後も継続③「平和の鐘を鳴らそう」事業は、評議員会で今後のあり方を議論の予定④ユネスコの名称やロゴ使用については、単体使用でなく、ガイドラインに沿って使って欲しい——などの報告と要望がありました。

分科会は、青少年活動実践報告に参加しました。美作高校がオーストラリアの姉妹校と交流を十年継続し、国際交流、国際理解に取り組んでいること、書

き損じはがき回収運動や津山ユネスコ協会との交流を深めていることなど、ユニークな活動の事例発表がありました。

中国ブロック連絡会議において、来年の第五十一回全国高校生ユネスコ研究大会へブロック内高校からの参加と助成をお願いし、快く協力する旨の賛同を得ました。また、来年の開催地を鳥取県と決定しました。

(事務局長・山本隆信)

講座「ハンゲルに親しむ」開講案内

二〇〇〇年に大韓民国ユネスコ大邱協会と姉妹協会提携を結んだことを契機に、韓国の歴史・文化・生活習慣などについて理解を深めるとともに簡単なハンゲルを身につけて、在広韓国人・広島を訪れる韓国人と交流を深めることと青年部の結成を視野に入れその一助にすることを目的にはじまったハンゲル講座。三回目の本年度も広島市青少年センターと共催で開催します。

最近の韓流ブームの中で受講希望者が例年以上に増えることが期待されます。

・日時は平成十七年一月十四日(金)〜二月十八日(金)の毎週金曜日 18時30分〜20時30分の全六回。

・場所は広島市青少年センター。

・参加費は二千五百円(受講料二千円、材料費五百円)

・講師は韓国語通訳朴英珍氏。内容は自己紹介、文字と発音の仕組み、文字と発音の練習、簡単な挨拶、ハンゲルメの集い(料理などのワークシヨップ)、日常会話など。

・定員は三十名。

・詳しいことは広島市青少年センターへお問い合わせください。電話は二二八一〇四四七。



7月

- 14日 「国際交流・協力の日」参加第一回実行委員会(事務所)
- 24日 第一一六回ユネスコサロ「世界の集落・遺跡を訪ねて」広島大学大学院教授・難波平人(国際学院大立町キャンパス)
- 〃 理事会
- △8月▽
- 2日 文化部会(メルパルク)
- 4日 教育部会(市民交流プラザ)
- 8日 全国高校生ユネスコ研究会(水俣市・芦北町。山本事務局長。11日まで)
- 14日 大阪南ユネスコ青年部ヒ

ロシマ・スタデイ(高橋副会長講話。亀井常任理事、山本事務局長。15日まで)

会準備委員会(廣大附高と同校)

15日 平和の鐘を鳴らそう(北川会長ほか。平和記念公園)

1日 「国際交流・協力の日」参加第三回実行委員会(事務所)

20日 「国際交流・協力の日」実行委員会(松尾常任理事。国際会議場)

5日 原爆ドーム世界遺産登録記念絵はがき改訂版完成

23日 高校生国際理解セミナー(百十名。市民交流プラザ)

6日 中国ブロックユネスコ活動研究大会(佐々木理事、山本事務局長。岡山県津山市、7日まで)

△9月▽

9日 廣大附高景山校長に全国大会協力依頼(15日に同原田副校長にも。北川会長、山本事務局長)

1日 ユネスコ活動奨励賞応募受付開始(10月31日まで)

11日 「国際交流・協力の日」実行委員会(松尾常任理事。国際会議場)

2日 国際基督教大学ヒロシマ・スタデイ(亀井常任理事。平和記念資料館外、3日まで)

16日 全国高校生ユネスコ研究会準備委員会(廣大附高と同校)

4日 ペあせろべ実行委員会(山本事務局長。国際会議場)

3日 ユネスコ活動奨励賞審査委員会(国際学院大立町キャンパス)

22日 「国際交流・協力の日」参加第二回実行委員会(事務所)

5日 「国際交流・協力の日」(国際会議場外)

25日 ペあせろべ実行委員会(國田理事。国際会議場)

6日 理事会

△10月▽

3日 「物産陳列館から原爆ドームまで」ヤン・レツル研究家雨野忍(国際学院大立町キャンパス)

1日 全国高校生ユネスコ研究会準備委員会(事務所)

16日 全国高校生ユネスコ研究会来日(広島プリズホテル外。19日まで)

3日 ペあせろべ参加(北川会長外。中央公園芝生広場)

29日 全国高校生ユネスコ研究会

14日 大韓民国総領事館訪問(協定調印式出席依頼)

16日 大邱ユネスコ協会訪問団

16日 大邱ユネスコ協会訪問団来日(広島プリズホテル外。19日まで)